

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 泉尾高校は、生徒一人ひとりと真摯に向き合い、保護者や地域から信頼される「通いたい学校」「通わせたい学校」をめざす。
- 1 地域に根ざし、地域に開かれた、地域から愛される学校をめざす。
 - 2 自ら律し、基礎からしっかり学び、自ら行動できる力を養い、社会に参画できる人材を育成する。
 - 3 自尊感情が豊かで、規範意識を高くもち、多様な価値観を認めることのできる生徒を育成する。
 - 4 教職員が一致団結し、「学校力」を高め、生徒や保護者、地域のニーズに応える教育を実践する。

2 中期的目標

- 1 自己実現のためのキャリア教育
 - ・進路実現のために、基礎的な学力の定着をめざし、3年間を見通した授業、教育課程を実践する。
 - ・基本的な生活習慣を身につけさせ、部活動や学校行事を活性化させることで、自己管理能力や人間関係形成力をつけさせる。
 - ・生徒が夢と志をもてるようなキャリア教育を推進する。
 - ・個々の生徒一人ひとりを把握するために、生徒・保護者・地域が連携し、生徒を支援する。
 - (1) 確かな学力への取組み
 - ア 分かる授業、充実した授業より基礎的、基本的な学力の定着をめざす。
 - ・少人数授業や習熟度別授業、選択科目が充実した教育課程を実践する。
 - ・「朝活動の実施」などで、学び直しによる基礎学力の向上をめざす。
 - イ 授業を補完する放課後補習や試験前補習、進路向けの講習や夏期講習を実施し、生徒一人ひとりの課題に対応する。
 - ウ 2年生・3年生にステップアップクラスを編成し、個々に応じた授業を展開する。
 - (2) 分かる授業、充実した授業づくりへの取組み
 - ア 基礎学力診断テストを実施し、その結果を授業や朝活動、放課後補習に活用する。
 - イ グループ学習などの授業形態や授業方法などを研究するために、外部講師の招へいや外部との研修・交流をおこなう。
 - ウ 学校経営推進費の事業にある「様々な授業形態と学びの実験と体験」を具体化するために、ICT環境整備を進め、ICT機器やタブレット型PCを活用した本校生徒に合った授業方法を開発、確立する。
 - エ 学校教育自己診断の学習指導に関する指標の生徒評価を上げる。
 - (3) 社会人として必要なルールマナーの習得と生きる力の醸成
 - ア 入学後、1年生に宿泊研修とオリエンテーションを行い、学校の適応を促進させる。
 - イ 朝のあいさつ運動や身だしなみ指導をおこない、授業や校内での学習環境の整備を徹底させる。
 - ウ 厳粛な儀式・集会を実施し、清掃活動などのボランティア活動を活性化させる。
 - エ 遅刻指導を徹底し、遅刻防止に努め、基本的な生活習慣を身につけさせる。
 - オ 部活動や学校行事を活性化させることで、自尊感情の醸成、人間関係形成力、自己表現力を育成する。
 - (4) 夢と志を育むキャリア教育の確立
 - ア 卒業後の進路を見ずえて、3年間のキャリア教育、進路指導を体系的に構築し、実施する。
 - イ ICT教育などの多様な授業によって、「生きる力」を醸成し、生徒の自己実現に結びつける。
 - ウ 外部講師の招へいや地域・OBの人材の活用で、多様で自律した「大人の世界」に触れさせ、生徒の生きる力を醸成する。
 - エ インターンシップや職場見学により、生徒の進路実現を促進する。
 - オ 部活動の活性化から「体育コース」を充実させ、夢と志をもった生徒を育成する。
 - (5) 生徒理解の促進と相談体制の確立
 - ア 不登校や退学する生徒を早期発見し、早期に対応し、不登校者や中途退学者を減らす。
 - イ 生徒の実態把握のため、家庭連絡・家庭訪問に努め、中学校とも連携する。
 - ウ 教育相談体制を充実させ、生徒の情報を共有化する。
- 2 開かれた学校づくりの推進
 - (1) 広報活動の充実
 - ア 広報活動を充実させるために、学校説明会、体験入学、中学校訪問、出前授業、地域との交流等を積極的に行う。
 - イ 学校HP、学校紹介ビデオ、学校案内等を作成し、情報発信に努める。
 - (2) 地域などとの交流
 - ア ボランティアなどを通じて地域との交流を促進する。
 - イ PTA活動を活性化させ、保護者と一体となった学校づくりを図る。
- 3 学校運営体制の確立
 - (1) 学校改革への取組み
 - ア 将来構想委員会、運営委員会を中心にキャリア教育を柱とする学校改革の取組みを企画、実施する。
 - (2) 業務の効率化、ICT化
 - ア ICTを活用して校務の情報化による効率化を図る。また、校務処理システムの定着と効率化を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】 生徒の評価「教え方を工夫している。55% (前年 54%)」「分かりやすく楽しい。44% (前年 41%)」と昨年度よりわずかではあるがよくなっている。教員全体で授業改善の取組を行っているが、生徒の評価には結びついていない。ギャップの原因を分析し、分かる授業に結びつけたい。</p> <p>【生徒指導等】 生徒の評価「学校に行くのが楽しい。60% (前年 56%)」と昨年度より微増した。保護者の評価「保護者の相談に適切に対応してくれる。87%」「担任などからきめ細かな家庭連絡をしてくれる。79%」と教職員と保護者との連携が為されていると思われる。生徒の評価「進路について情報を知らせてくれる。67%」とまだまだ低位である。生活指導だけでなく進路指導も課題を残す。</p> <p>【保護者等】 保護者の評価「学校は保護者の願いに応じてくれている。77%」「子どもの評価を適切・公平に行っている。88%」「学校の生徒指導の方針に共感できる。81%」と学校の教育方針に一定の理解が得られていると思われる。一方、「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。57%」「PTA活動に参加することがある。17%」である。開かれた学校づくりを進め、直接教育活動に参加してもらえらる機会を作る必要がある。</p> <p>【全体】 全体的に見て、生徒の評価が低位であるが、真剣に回答するようになった結果と受け止めている。一部の生徒は生徒指導が厳しいと感じており、その対応と指導に対策が必要である。一方、保護者の回答数も増加するとともに評価も上昇し、学校運営や教育方針に対して一定の信頼を頂いていると思われる。</p>	<p>【第 1 回】 (6/25) 学校経営計画の説明 (校長より) を行った後、ご意見を頂いた。 ※外部講師の招へいや地域、OBの人材活用について、ご意見を頂いた。 ※部活動の活性化について、ご意見を頂いた。 ※基礎学力診断テストについて質問があった。 ※今年度の選抜について、前期不合格者の動向や通学地域の変化について質問があった。 ※アルバイトについて質問があった。 ※授業に対する姿勢を変えるようにしてほしいというご意見を頂いた。 ※子どもと先生の仲がよく、想像よりも乱れていなかったというご意見を頂いた。 ※夏期講習について、ご意見を頂いた。</p> <p>【第 2 回】 (11/12) 学校経営計画の進捗状況の説明を行った後、ご意見を頂いた。 ※遅刻指導について、質問とご意見を頂いた。 ※宿泊研修について質問があった。 ※ステップアップクラスについて質問があり、肯定的なご意見を頂いた。 ※部活動加入の取組について質問があり、ご意見を頂いた。 ※教員が授業を工夫している、生徒の授業に対する姿勢が変わってきているというご意見を頂いた。</p> <p>【第 3 回】 (2/6) 学校経営計画の達成状況や来年度の学校経営計画について、また自己診断アンケート結果の説明を行った後、ご意見、ご質問を頂く。 ※学校経営について、多くある学校設定科目とは何かとの質問があった。 ※来年度の学校経営計画について、進学希望者の指導体制の問題、一般入試は難しいが受験者がいるのかなどの質問があった。(本校での指導体制をまず作りたいと返答があった) ※授業アンケートについて、予習する生徒が少ないが、反転授業という方法もあるというご意見を頂いた。(参考にさせて頂きたい。ICT機器の活用も考えていると返答があった。) ※高校になると、保護者がPTA活動に希薄になるが、授業アンケートも回答数が少ないのではないかと質問。(保護者回答は増加しているが、抜本的な対策が必要と返答があった。)</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自己実現のためのキャリア教育	(1) 確かな学力への取組み	ア・生徒の実態に合った少人数授業、習熟度別授業、チームティーチング、選択科目の充実にもなう教育課程を編成、実施する。 ・「朝活動」では体系だった学び直しの教材による基礎学力の向上を図る。 イ・成績不振者への放課後および試験前補習の実施、進路向け対象者へは放課後講習や夏期集中講座などを実施する。	ア・年間使用した体系的教材などの成果物の作成。 イ・成績不振が原因の留年者を0にする。	ア・成果物の作成 (○) イ・成績不振者への指名補習、考査前の補習、夏期集中講座を実施 (○)
	(2) 分かる授業、充実した授業づくりへの取組み	ア・基礎学力診断テストを春・秋に実施し学力を測定・分析し、基礎学力の定着や授業、朝活動の教材づくりに活用する。 イ・学校経営推進費でICT環境整備を行い、ICT教育を推進する。 ・グループ学習などの授業形態や授業方法について、外部も含めて年2回の全体研修などをおこなう。 ウ・授業研究週間を年3回実施し、授業研究を進める。 エ・学校教育自己診断の学習に関する指標の「教え方を工夫している。」「分かりやすく楽しい。」の生徒評価を上げる。	ア・基礎学力診断テストの実施と分析。 イ・ウ ・研修(年2回)や研究週間(年3回)の実施 ・外部講師による研修の実施(年1回) ウ・管理職による初任者研修(月1回) エ・学校教育自己診断の学習に関する指標肯定率60%をめざす。	ア・基礎学力診断テスト及び分析会を2回実施(○) イ・ウ ・研修2回及び研究週間3回実施(○) ・外部講師による研修1回、校外研修への参加6回(◎) ウ・管理職等による研修毎週実施(○) エ・診断の学習関連事項の肯定率50%(△)
	(3) 社会人としての必要なルールマナーの習得と生きる力の醸成	ア・入学後の宿泊研修とオリエンテーションで人間関係づくりや集団活動を促進し、学校の適応と定着を図る。 イ・「あいさつ運動」「身だしなみ指導」の定着および授業での学習環境の整備を進める。 ・授業において、「起立・礼」の励行、教室の清掃、机上の整理・整頓などを指導・定着させる。 ・学校の美化・清掃に努め、生徒にとって安心して魅力ある学習環境を作る。 ウ・厳粛な儀式・集会の徹底や地域と連携した清掃活動などを通じて、社会の一員である事を自覚させる。 エ・遅刻指導を徹底し、遅刻を減少させる。 オ・部活動勧誘週間を年2回おこない、部活動加入率を上昇させる。	ア・宿泊研修とオリエンテーション後のアンケートで学校適応に関する指標70%をめざす。 イ・毎朝校門での「あいさつ運動」実施 ・授業観察等で授業での「起立・礼」等を確認する。 ・校内クリーンウォークの実施 ウ・地域清掃の実施回数(校外クリーンウォーク年2回) エ・遅刻総数を10ポイント減少 オ・部活動加入率38%をめざす。	ア・生徒アンケートによる肯定率75%(○) イ・「あいさつ運動」の実施(○) ・「起立・礼」の実施確認(○) ・校内クリーンウォークの実施(○)1回190名参加 ウ・地域清掃毎週2回、校外クリーンウォーク2回(○) エ・遅刻総数30ポイント減少(◎) オ・部活動勧誘週間を3回実施したが、部活動加入率31%(△)
	(4) 夢と志を育むキャリア教育	ア・「職業適性診断テスト」、インターンシップ、職場見学、進路別説明会、大学訪問等を体系的に計画し生徒の進路実現に結びつける。 イ・多様な授業によって「生きる力」を醸成し、生徒の自己実現に結びつける。 ウ・「外部講師」の招へいや地域・OBの人材の活用により、生徒の進路への意欲を高める。 エ・部活動の活性化より「体育コース」の充実を図る。	ア・学校教育自己診断におけるキャリア教育関連事項で肯定率68%以上をめざす(平成25年度63%) ・進路別説明会(3年)を年5回実施する。 ウ・外部講師により年1回講演をおこなう。 エ・部活動加入率38%をめざす。	ア・診断のキャリア教育関連事項の肯定率:生徒67%、保護者85%(○) ・進路別説明会(3年)を6回実施 ウ・地域の企業による研修、外部講師による講演を実施(○) 「先輩の話を開く会」実施(○) エ・体育コースのバスケットボール、バレーボールへの拡大(○) ・部活動加入率31%(△)
	(5) 生徒理解の促進と相談体制の確立	ア・学年団、生徒指導部、保健室、教育相談委員会等が連携し、生徒の個々の問題に対し、ケース会議を開き、情報の共有化と対応を図る。さらに、生徒の中退率を減少させる。 イ・生徒の実態把握のため、学警連絡会、中高連絡会、中学校訪問、家庭訪問に努め、互いに連携をとる。 ウ・年間10回の教育相談委員会招集により教育相談体制の充実を図る。	ア・学校教育自己診断における教育相談関連事項で肯定率55%以上をめざす(平成25年度48%) ・生徒中退率を昨年度より3ポイント減少させる。	ア・学校教育自己診断における教育相談関連事項での肯定率51%(△) ・中退率1.7ポイント減少(△) イ・学警連絡会9回、中高連絡会1回、中学校訪問随時(○) ウ・教育相談委員会15回実施、ケース会議随時開催(○)
2 開かれた学校づくりの推進	(1) 広報活動の充実	ア・学校説明会、体験入学、中学校訪問などを実施し、学校HPや学校紹介ビデオを常に更新されたものに維持する。 イ・出前授業や中学校での説明会などによって、学校の情報を積極的に発信する。	ア・チーム内での効果検証 ・HPの更新回数(年間100回) ・中学校訪問回数(年間150回)	ア・HPの更新回数:192回(◎) ・中学校訪問:全教員で200校実施、管理職中心に100校実施(○)
	(2) 地域などとの交流	ア・地域の幼稚園、老人介護施設等と積極的に交流する。ミニコンサートなどで地域との交流を深める。 イ・PTA活動の活性化のため、保護者と担任などとの連携を進める。	ア・幼稚園や老人介護施設等へ年3回の交流実績 イ・家庭訪問回数実績	ア・幼稚園との交流、コンサート実施、大正ものづくりフェスタ参加(◎) イ・家庭訪問回数110回、学級委員数32名(○)
3 学校運営体制の確立	(1) 学校改革の取組み	ア・キャリア教育を柱とする学校改革 ・分かる授業、力がつく授業のための授業改革をおこなう。 ・外部講師の招へい、職場見学などの講演や研修などを積極的に実施する。	ア・管理職等による初任者や若手教員研修の実施 ・外部講師による年2回の講演実施	ア・管理職等による初任者研修毎週実施、校内研修7回実施(◎) ・地域の企業による研修、職場見学、外部講師による講演を実施(○)
	(2) 業務の効率化	ア・ICTを活用して校務の情報化を図る。 ・職員会議レジュメ、資料、各種文書のデータ化、保存を一本化する。 ・校務処理システムを効率的に稼働させる。	ア・Sドライブを活用した情報共有 ・職員会議資料などのデータ化 ・校務処理システムの稼働	ア・Sドライブを活用した情報共有(○) ・職員会議資料のデータ化(○) ・校務処理システムの稼働(○)